向陽新聞
高知市塩屋崎町1-1-1
土佐中・高校新聞部
編集人　水田幹久
発行人　加藤正治
印刷　高知印刷

写真
TEL ⑫6758
大丸東入口前
高橋

明るくなった教室

去年八月七日起工式を行なって以来約九ケ月、第一期工事が終り、待望の高校塔・中央管理塔が姿を表した。第一期工事は、中央塔の基礎工事に時間がかかり、当所の予定であった新学期竣工より約一ケ月間遅れて、四月三十日に完成した。この校舎は鉄筋コンクリート五階建てで、高校塔は四階建て。総工費は建造物だけで三億五千万円である。

第二期工事は七月下旬に着工され、完成は来春三月の予定。この工事では、中学の全教室や先生の準備室などが設置される。また、体育館とプールは第三期工事で行なわれる事になっている。

去る四月三十日に第一期工事が完成し、五月六日・七日の両日、新校舎への移転作業が行なわれた。六日は高一全員で図書館の本や理科の薬品・事務室や職員室で使用されていた道具類が運ばれ、七日には本校生全員によって先日運び切れなかったものに加えて、机・いすなどが運ばれた。そして、七日の夕刻には、ほぼ移転作業を終了し、八日から新校舎での授業が始まった。

新校舎の一階、高校塔には理科特別教室六室が、中央塔には事務室や保健室のほか管理系統の部屋が配置されている。二階以上の高校塔はすべて一般教室にあてられている。中央塔二階には職員室・指導部室・三階にはL教室・合併教室や社会科教室。四階には書道室・図書室や合併教室。五階に室は音楽室・家庭科室がおもなものである。

この校舎に新しく設置された教室がある。三階に置かれたLL教室は、現在使用される機種を選択中で、まだいつごろ設置されるか未定である。社会科教室は、社会科の先生の話によると、「スライドを使う授業につかいたいが、まだ暗幕・映写機の設備がないのでぜひ備えてもらいたい」と言うことである。三階の合併教室は、主に生徒議会やクラブ・その他の生徒活動に使われるもので、放課後以外は四階の合併教室と同じく60人を越える多数生徒の授業の際に使用される。二階にあるカウンセリングはカウンセラー（専門的な相談員）は置かず、先生と生徒の面談特に生徒部の生活指導に使われる。一般教室の間にある分割教室は小人数の授業に使用されるが、計画してこのスペースをとったものではなく、建築都合上この部分が余り分割教室となったものの。五階の家庭科室は料理・調理・被服・作法の各教室に分れている。新校舎について理科の久保田先生は、「六室の特別教室ができたので、実験回数を増したい。暗幕があるのでスライドや今までできなかったプラネタリウムを使った授業を行なえる」、また保健の浜口先生は、「拭き掃除がなくなったのでちりが散乱している。生徒の便所の使い方が悪い」と言っている。一般には教室が明るくなった事が好評。

二期工事　七月下旬に着工
体育館・プールは三期工事に

四月三十日に完成した第一期工事の高校塔及び中央塔に引き続き七月下旬には第二期工事が着工される。この第二期工事では土台などの工事方法は第一期工事とほとんど変わらず、完成後は現在の高校塔とほぼ同じ構造になる。工期は九ケ月の予定で、来年の三月には完成する見込み。この中学塔の内部には、中学の全教室をはじめ美術室、技術室、先生の準備室などが設けられる以外は特別な設備は作られないようである。また、中学一般教室は高校塔と同じく二階以上になる予定。二期工事で建てられる予定だった体育館やプールなどは、第三期工事に回されることになった。

二期工事では、旧校舎（第三昇降口より西側―旧中二教室）や食堂などが壊されるが、旧プール及び体育館は第三期工事が始まるまで残されることになっている。また、問題となっていた第二期工事の建築費は一億二千万円位になり、何とか調達できるメドが付いたということである。

さて、新しく作られるプール及び体育館（二階建て一階に売店・食堂・運動部の部室などがおかれ二階は講堂兼体育館となる）などは、第三期工事として六十七年度につづいて行なわれることになっているが、これは資金の調達いかんによって多少変更されるので、はっきりした事は言えないということである。

食堂　労働条件の再考を　値上げをめぐって

新学期から食堂のウドンとラーメンが三十円に上った。去年の九月二十五円になってまだ半年たらずである。金額にしてはわずか五円たらず。しかし五円の含んでいる問題は大きい。今回はそれに焦点をあわせてみよう。

値上げの背景

今回の値上げについて、新厚生部長の元吉先生は、「去年九月に二十五円に値上げした時点で食堂の経営状態は赤字すれすれだった。今回値上げしたのは経営状態の打解と、食堂のおばさん達の給与に対する配慮からです」とのべられた。おばさん達の給与は去年十一月、新聞部で調べた時よりある程度上っている。つまり、県公職員のベースアップに伴った本校職員の給与引上げにおくればせながら歩調をあわした格好になる。

問題点

今回の学校側の食堂に関する姿勢はある程度前向きになってきたと言えるだろう。しかし、まだ多くの改善すべき問題が提起されるに到った。

第一に給与の問題。今回確かに改善はなされた。しかし、あまりに微微たるものではないだろうか。中学校出の初任給が二万数千円という現在である。また、食堂のおばさん達の労働は、いわゆる単純八時間労働に属する。その点から見ても改善される余地は十分にあるのではないか。

第二に、金銭面以外の労働条件の問題。去年十一月新聞部がとりあげた食堂問題から二、三引用してみる。「労働組合などがないため強硬な改善要求がしにくい」「短時間に集中的に仕事をするため肩のこりや病気やめていくことがあった」などがある。

このような事に関して元吉先生は、「給与の差異というのは、それぞれのポストによって違っているのはしかたがない。しかし金銭面以外の労働条件は、同じ職場で働く以上同等にすべきではないか」と指摘されている。

一方校長先生は、「食堂のおばさんの選任・給与に関しては、事務の方と数名の先生方にやってもらっている。したがって私はその報告を聞くという形で直接に関係していない」と前置きされ、「食堂のおばさん達は現在の労働条件をのんでもらった上で働いてもらっている。だから私としては現在の状態を改めようとは考えていない」と発言された。

はたして事務処理をするだけで学校運営がスムーズに行なわれるであろうか。もし行なわれるならそれは皮相的なものではないだろうか。また、校長先生は、おばさん達は条件をのんで働いてもらっている。だから現状を改めようとは考えていない。と発言された。

雇用者と被雇用者の歴史が労働条件改善に終始する歴史であるという事実を校長先生に思い出して欲しいものである。

食堂の今後

現在の食堂は新校舎の第二期工事が始まると、とり壊される。そこで仮食堂として旧音楽室を使用することになっている。まだ青写真以前の段階だが、規模その他も現在と同等になる予定。

次に、第三期工事で建築される食堂について校長先生は、「現在の段階はまったくの白紙だが、構想としては、食堂の拡充・メニューの多様化などを考えている。また生徒の意見は十分反映するつもりだ」と発言された。

また食堂に対する校長先生の意見として、食堂は学校建築基準（学校を建築するに必要な最低限の設備で、この設備がないと建築許可がおりない）に該当しないためあくまでも補助（この場合、必要条件であるが十分条件ではないというニュアンス）である。したがってメニュー・設備などにも、おのずと限界があることを明らかにされた。

ひとこと

O…春です。花香る春、新婚ある。また、あの愛の結晶作用で有名な『恋愛論』の作者でもある。彼がこの恋愛論を執筆した動機は、この劣等感にほかならない。詳しくのべよう。

O…彼には、秘かに恋したデンボースキー夫人がいた。ダンテにとってベアトリーチェが永遠の恋人であったのごとく、彼にとっても夫人は永遠のひとであった。しかし夫人は彼の意をうけ入れず、彼は失意のうちひしがれた。この時期に執筆されたのが恋愛論である。そういうわけで恋愛論には、冷やかなほどの女性心理の深層への介入が見られる。男子諸君には一読に値する文献だと思う。つまり女性に対するうらみ・つらみ・劣等感の集大成である。もちろん彼に文才があったということも見逃せない事実だが、劣等感なしではできない相談だろう。愛とさげすみ、お互い反目しあう言葉だ。しかしどちらも人を強くする。

O…今度は私達のことを考えてみよう。先に〝校舎コンプレックス〟のことを書いたが、この校舎に関する土佐校生の劣等感の所在とでもいうものを探ってみよう。

O…この旧校舎いわずと知れた天下のボロ校舎である。「土佐校ゆうたら学校はいかんもんじゃけんと教えゆうことは天下一品ぜよ」このように言われて久しい。つまり私達は校舎がボロいということに対して劣等感と、その自虐作用による副産物であるある種の誇りを持っていたのではないか。私達の心に劣等感と誇りがいつも同居している。そしてその二枚舌を使うための最後の安全地帯がここではなかったか。

O…いまやこの安全地帯は排除されようとしている。現在私達が真に劣等すべき所は私達の生活態度そのものではないだろうか。さて土佐校生諸君！

（K・O）

最後の安全地帯

△　▽

創立五〇周年記念行事
現在行なうのは無理

大正九年川崎・宇田両氏によって本校が設立された。そして一昨年11月18日に五〇周年を迎えた。

しかし五〇周年記念行事は校舎建築の影響により今日まで宙に浮いた状態が続いている。この事について校長先生は「記念行事を行なわない訳にはいかない。しかし現在の段階では場所・時間などの関係からできない。行おうと思えば、県民ホールを貸りてでも行うことができるが、それでは記念行事の意味が薄れる。したがって具体的な計画は校舎が完成した以降になるだろう」と言っている。

五〇周年から一年半すぎた今、種々の弊害が少なくない。先日執行部が行った五〇周年記念に関するアンケートでは、回収率40％前後だった。これは一般生徒の関心が薄れている事を示している。

執行部では記念行事小委員会を設置し、学校側に働きかける様子である。

らくがき

ここ数年来公害が大きな社会問題としてクローズアップされて来た。その代表的なものが水俣病、イタイイタイ病などのさまざまな奇病である。水俣については一〇年余りも世間から忘れ去られ、水俣病患者家族は孤立した闘いしかできなかった▼このほど高知市公害対策課が初の〝公害白書〟ともいえる「市における公害の現状を発表した。これでは、四十二年度から四十五年度までの四年間の各種の公害を取りあげている。注目される点は、地区別の公害苦情・大気汚染などのトップに潮江地区があげられている▼また五月八日から十三日まで市民図書館で「高知パルプを告発する江の口川公害展」が開かれた。これは「江の口川流域市民会議」と「浦戸湾を守る会」が主催して、公害のひどさを訴えていた。会場には約二百点の証拠品が、ところせましと並べられている▼学芸中写真部による、パルプ廃液、ヘドロでよごされた現在の江の口川各所の写真、発生する硫化水素などのため変色したトタン。さらに最近江の口川で見つかったフナなど徹底している。三十年前ごろは泳げたという川が、西日本一汚ない川となってしまった公害の恐しさを痛感した▼またこの〝告発展〟にも見られるように、最近住民運動の盛り上がりが目につく。その一つとして本県にも、住民パワーで移転を決めた「高知パルプ会社」がある。この会社は、一月に一万三千五百トンもの廃液、ヘドロを江の口川に流している〝公害会社〟である。それを「浦戸湾を守る会」の人達を中心に、地域住民が協力して県・市にはたらきかけた。そして、行政委員の重い腰を動かし工場移転までこぎつけた▼水俣だ、富山だと身近に感じなかった公害も、南国土佐をもう犯しつつある。公害というものは、すこしでも警戒をゆるめると、知らぬまにとりかえしのつかないものとなる。だから個人単位の活動ではダメだ、住民の協力を得て、次第に大きな市民運動に発展させていかねばならない。そして公害を追放して、川には魚を泳がし、町には緑をふやそう。自然を取りもどして、住みよい町づくりをしていかねばならない。

（M・K）

主張　新築に七年間の歳月
二つの大きな失敗

昭和三十九年、校長が新校舎建築を表明した。以来七年間もの長い月日が経過した。そして四十六年五月一日に定礎式が関係者を集めて行なわれた。七年間の新校舎建築までの経過をたどってみよう。

昭和三十九年
◇校長が新校舎建築を正式に表明。
◇十月　新校舎建築に関する研究機関として「校舎建築研究基礎委員会」を設置。
◇本校の土地四ケ所をボーリング調査

昭和四十一年
◇長期十年にわたる資金調達計画が立てられる。
◇四月より生徒一人当り七百円ずつ徴収始める。

昭和四十四年
◇二月　当時の高二より公開質問状が校長に手渡される。
◇三月　終了式場で校長が公開質問状に対する答弁を行なう。
◇七月中旬地主との最終的な交渉を行なう予定。
◇十二月　移転交渉の行きづまりから現地建築となり、来年度中にも着工したい意向。

昭和四十五年
◇四月　清水建設に依頼していた青写真できる。
◇五月　ボーリング調査行なう。
◇八月　新校舎建築第一期工事の起工式が行なわれる。

昭和四十六年
◇五月　新校舎第一期工事が完成し定礎式行なわれる。

「校舎建築委員会」では①学校建築は必要か②土地は移転しなければならないか、という二点が中心目的とされた。その結果、①については老朽化のため必然的に新築に決定した。②については④土地が狭い⑤地質が軟弱⑥環境の問題で移転に決まっている。

以上が大まかな経過である。これを見ると学校側の大きな二つの失敗をあげることができる。

その第一は現地建築である。三十九年に「校舎建築研究基礎委員会」を設置し、新築移転をはっきり決めていた。しかし土地交渉の不手際のため、移転を断念している。この時、新聞部のアンケートでは根強い移転の声があった校長はその理由を「最終的な移転候補地としてあげられていた土地は、二戸の人家との折衝がどうしてもつかなかった。（向陽新聞八十二号）と語っている。この二戸だけ残ったというのはどうした事だ。なぜこのような下手な交渉を行なったのか、理解できない。そしてこの失敗は大きい。

最近発表された公害調査において、潮江地区が公害（大気汚染・騒音振動など）のトップにあげられている。つまり、現地建築では環境衛生が問題となる。このような事を考えずに、強引に決めてしまった学校側は、先見の明がまったくなかった。

第二は調達計画の不徹底が見られる。四十一年に計画した長期資金計画が甘かったため、着工まで五年間も時間がかかってしまった。最近になって四十六年から建築協力金を千円とし、一口五万円の学校債（無利子）を発行した。さらに授業料収入の中から三千万円建築資金に回すなど、地道に計画を進めず、土壇場にきて必死になって資金集めをしているように思われる。

このように新校舎完成には長い道のりがあった。校長以上先生方も、相当苦労があったと思う。我々生徒はそれを一新しよう。

生徒は自覚を持って
ボーリング解禁の声高まる

「ボーリングは健全なスポーツである。高知大でも授業としてとりあげている。また料金は映画などに比べて高いものでなく、小使いの水準からも無理でない。土佐女子・学芸でも認められている」。これは、三Hから提出された〝生徒心得〟の改正案（立入禁止の娯楽場の中からボーリング場を除くもの）の提出理由である。

最近、ボーリングを授業に取り入れている大学が百校を越した。またテレビでも、ボーリングをテーマにしたドラマを行なっている。まさにボーリングブームである。

それでは、なぜこのようにブームとなったのだろうか。「ボーリングはスカッとして気分がいい」「ストライクの爽快さがたまらない」「適当な運動を理解して、新校舎にのぞんで、気分を一新しよう。

そこで大事なことは、自覚を持って遊びに溺れないことだ。一つの遊びを覚えると病みつきになって、勉強ができなくなってしまう。先生方もそこが心配なのだろう。永野先生は「生徒が早朝割引きでボーリングばかりしたらこれは問題だろう」と言っている。

ボーリング解禁の改正案は、賛成三十六、反対六、棄権六の圧倒的な差で可決された。しかしこれで決まったのではない。次に職員会にかけられる。もし否決されたら終りだ。

健全なスポーツ、ボーリング。生徒がマージャンやパチンコに没頭するより、ボーリングに目を向けさした方がいいのではないか。

× × × ×

委員会でも討論された。家族ぐるみで楽しむ人も多く、雰囲気は別に悪くないだろう。料金も特別高いものでない、学校としても確固たる禁止理由がないのではないだろうか。

現役合格率は上がる
女子の好成績目立つ

昭和四十六年度大学入試に関する統計が指導部によって、このほどまとめられた。

今年は合格延数四百三十二人（浪人も含む）で、去年より五十六人下まわったが、浪人の受験者が去年より七十三人減っていたため、合格率では去年より良い成績となった。

主な大学の合格者は国立大では東京大…13人（14）、京都大…12人（13）、大阪大…12人（7）、名古屋大…4人（5）、岡山大…6人（5）、徳島大…5人（4）、高知大…7人（10）、静岡大…6人（3）、私立では早稲田大…41人（44）、慶応大…21人（30）、中央大…25人（16）、上智大…7人（9）、東京理科大…7人（3）、同志社大…31人（26）、立命館大…25人（15）、関西学院大…7人（12）となっている。――（）内の数字は去年の合格者数。

学部別見ると、法学部46人（33）、文学部27人（28）、工学部56人（82）、医学部35人（36）・理学部8人（8）、薬学部10人（10）となっている。

今年の傾向について指導部の山岸先生は「現役合格率は昭和四十二年から54％、45％、48％、53％と上昇の傾向にある。今年は特に女子が良い成績をあげている。例えば今まで女子の合格が3～4人程度しかなかった医学部に女子だけで8人合格している。また、合格内容も充実してきている」と言っている。

新教頭に松浦先生
校務分掌に大幅な交代

今年度より、むこう二年間の校務分掌がこのほど決まり、教頭をはじめ生徒部長ほか役員の大幅な交代があった。この校務分掌は先生方の選挙によって決定されるもので、二年の任期でおこなわれている。

まず大きな移動として、高橋先生に代わって新教頭には松浦先生が選ばれた。また、新生徒部長には教頭になられた松浦先生に代わって生物の永野先生が当選された。さらに新しく、中学全体を総轄する中学主事というポストが設けられ、元整理部長であった久保田伊雄先生がこれを担当されることになった。これは、高校ばかりに先生の目が集中する傾向が強くなったためである。このため、新整理部長には岡部先生が新しくつかれた。また、厚生部長には元吉先生が玉貴先生に代わって就任されることになった。その他、教務部長には竹村一水先生、指導部長には山岸先生、図書部長には小松先生、体育部長には西田先生、特活部長には三枝先生がそれぞれ再選された。

新教頭になられた松浦先生は、「これまでより生徒と接する時間が少なくなるが、しっかり頑張らなければならないと思っている。また、これからは新しいものが多く入ってくるので生徒も大いに奮起してもらわなければ……。とにかく、第一期工事も終ったので全校一丸となってますます土佐校を充実していきたい」

また、新生徒部長に就任された永野先生は、「私は土佐高生はよく勉学し、責任感が強く同時にスポーツを愛好する明るい生徒だと思っている。これからは、今まで以上に勉学とマナーを誇る土佐となるように生徒の協力によりその実を上げたい」とそれぞれこれからの方針を語っておられた。

土佐中高等学校指定店
通学用かばん
ハンドバック
マーク（校章）イニシアル付き専門店
トミヤ
京町　TEL72―3418

足もとに　優雅な　印象を……
ふくすけや

入丈学服
本町中ノ橋電停前北側　TEL ⑫1776・2744

ぐ～んと大きく安くなった
たのしさを売る
フジカラープリントE サイズ
キタムラカメラ
中村店―升形店―アタゴ店―本店―追手筋店―サエンバ店―安芸店
堺町33　TEL22―1641(代)
フジ　イロヨイ

闘志燃やす新執行部

授業料問題にも積極的に

後列左より吉岡君、志和副会長、福島会長、岡江副会長、上杉君前列左より岩村君、安岡君、小川さん、林さん、沢近君

「現在、生徒委員会の意見が、学校側に何ひとつとして反映されていない。だから、手身近かな問題をとりあげて、学校側に何か一つでもはたらきかけたい」と抱負を語る会長。会長を中心に、組織された新執行部が、四月十三日の生徒委員会で承認された。

会長……福島康志君（２S）
副会長……岡江正純君（２O）
　　志和光三君（２K）
書記……小川雅子さん（２K）
　　沢近昌彦君（１K）
会計……林俊江さん（２H）
HR担当…安岡高志君（２H）
広報担当…上杉直彦君（２K）
美化担当…岩村　久君（１K）
各部担当…吉岡健太郎君（２K）

会長にインタビューしてみた。

―今学期の目標は何か。

①五十周年記念行事を行なう。②各クラブの興隆をはかる。③先生と生徒の間の交流を盛んにする。④他校執行部との交流を行なうの四つを目標としている。

―この目標の具体的な計画をどのように立てているか。

②については、放送・ギター・演劇に放送設備を使ってもらう予定だ。また会議室を使って、美術部・写真部の常設展示場にしたい。③は、スポーツ・懇談会を用意して形にとらわれないようにするつもり。④では、まず手始めに、追手前校に交流を申し込む計画だ。

―授業料問題はどうするのか。

来年もたかるだろうから、今度も反対していく。そして、私学助成問題など、県・市へ働きかける予定である。

＜美化担当＞今までは旧校舎で、美しくすることに重きがおかれていた。これからは、新校舎をいかに汚さないようにするかが課題。特に、便所そうじを重点的に行なう。汚物入れも用意するつもり。美化の日を設け、美化一般を徹底させる。

＜HR担当＞目標はHRの話し合いをみんなが参加できるように改善すること。そのためHRの資料集（HRの意義など）の作成②各クラスにHRノートを用意し話し合いのようすを集めて、週間ホームルーム（広報とは別）を発行するの二点を計画。またフォークダンスもやりたいが、生徒の積極的な参加が見られないので考慮中である。

＜各部担当＞運動部の練習場の確保が目標。しかし、各部の間で話し合いがついているので、別に手を加える必要がない。現在では各部の問題点を調べている段階。計画としては、各部部員の名簿を作成する。

＜渉外担当＞現在行なわれていない他校との交流復活が課題。計画としては、追手前との交流を予定している。これをだんだん発展させて、他の私立校と交流したい。

新議長団　好調なすべり出し

第一回生徒委員会は四月十三日に召集され、新議長団が選出された。メンバーは次の通り。

議長……松森　憲二君（２H）
副議長……山崎　一寛君（２H）
　　高野　純正君（１H）
書記……徳弘紀子さん（２K）
　　杉本　優君（１S）
　　山崎恵子さん（１H）

そして第一回生徒委員会では、四十八人中四十人の議員出席があり、流会流会で苦しんだ前年度とうってかわり好調なすべり出しをみせている。その理由として、議長団が生徒委員を個別に会って出席の要望と委員の自覚を高めていることがあげることができる。

新聞部のインタビューに松森議長は「今までのような流会というはずかしい事は絶対に避けたい。そのために生徒委員会の理解、生徒委員の自覚を高めなければならない。それを発展させ、生徒全体に自覚を持たせるようにしたい」と言っている。

……

ようにして造ったものです。約一カ月ごとに会場が変わりますからその度に出かけて行って造ることになっています。会場が変わるから当然、床の感じも違ってきますね。ぶちつけたようにして造ってあるから、床の出っ張りや引込みがそのまま出ることになります。どうして、こんな作品を造ったかそれはテーマが自然と人間ということで作品に床の感じが自然にでるいとうことが第一の理由です。その上今までのような絵画と違って力強い感じがするからです。今度の作品は以前に県展で似たようなものを造っているので自信をもってやりました」

第二分科会

アンケート集計でる

移転で中間発表遅れる

今年度の三学期に行なわれた第二分科のアンケートの集計結果が出された。校舎移転のためまだ中間発表には至っていないが六月に入れば、発表会が開かれる模様。

集計結果の主なものは次の通り

一、土佐校に入学した動機は？

自分から進んで…46%。家族や知人に進められ…41%。

二、土佐校生になったのはよい大学へ進学のため…37%。格別目的もない…37%。

三、勉強は好きか

好き…13%。嫌い…32%。どちらでもない…52%。

四、今一番悩んでいる事は

学習…71%。友人…7%。家庭のこと7%

五、悩みごとはだれに相談するか

友人…37%。父母…23%。兄弟…6%。先生…0.7%。

六、先生と打解けて話をしたことがあるか

ある…21%。ない…76%。

七、信頼している先生があるか

ある…57%。ない…34%。

八、最近一番関心をもった社会的ニュースは何か

1三島事件。2公害。3インドシナ戦争。4沖縄コザ事件。

九、あなたは日本の国にほこりをもてるか

ほこりをもっている…48%。ほこりをもっていない…38%。

十、あなたの一番好きな国は？

1日本。2スイス。3アメリカ4フランス。

嫌いな国は？

1中国。2ソ連。3アメリカ。4南アフリカ。

十一、毎日の授業についておおいに改善すべきである…45%。だいたい満足している…46%。満足している…9%。

十二、H・Rの活動をどう考えるか

今のままでよい…20%。もっと盛んにすべきだ…67%。必要がない…11%。

十三、話し合いの議題として一番関心のあるものは

1人間の生き方について。2娯楽について。3友情について。4男女交際について。

十四、現在クラブに所属しているか

はい…55%。いいえ…45%。

十五、クラブ活動は必要と思うか

はい…85%。いいえ…15%。

十六、クラブ活動の必要な理由

身体を強くする…34%。精神力を強くする…49%。協力、団結する事を学ぶ…34%。

十七、自分だけの部屋を持っているか

はい…73%。いいえ…19%。

十八、家庭で先生のことが話題にのぼるか

よくのぼる…14%。時々のぼる…54%。のぼらない…20%。

新任紹介

田村先生

日本三大独身の最後の一角であった山中先生も、先日崩れ去ったが、この程、新土佐校三大独身なる三人の新任先生が赴任された。

田村和則先生

祖母と母、それに姉と僕の四人で中須賀に御住まいを構えていらっしゃるという先生。趣味は登山、筆山で遭難しない程度のキャリアはあるというから、本校の登山家達にはうれしい話ではないか。「寝ころんでタバコを吸いながら、漫画を読むことや、パチンコがストレス解消法なんだ。今、旅行したいんだけど、金欠病でね」と胸を張って(?)おっしゃる。また、尊敬する人は、という問いには、即座に「坂本龍馬」とお答えになった。高知大学を御卒業後、本校に赴任された。現在二十三才

後藤先生

後藤秀武先生

八人家族の中で育った先生は、現在、朝倉の加地さん方に下宿している。「趣味は、登山と旅行、山陰に行きたい」とおっしゃる。そして、また「本校生は、まじめで生き生きしているよ」とも付け加えられた。今年、高知大学を御卒業後、本校に赴任された。現在二十二才

久保田耕一先生

三十一才の先生は、ただ今独身生活を楽しんでおられる。先生は少年時代を本校ですごされ、早稲田大学御卒業とのこと、本校では中一、中三、高一の英語を担当されている。中学時代の成績はきわめて優秀で、特に英語が得意であったそうである。（疑っ人は中沢先生のエンマ帳をどうぞ）

なお、先生は今まで時間講師として教べんをとられたこともあった。

また、新任の三人の先生方は、それぞれ個性のある講義を行なっていらっしゃる。

「うん、よっしゃ、次、十三番読んでみいや」と、コンパスを開いたり閉じたりしながら講義をするのは田村先生。

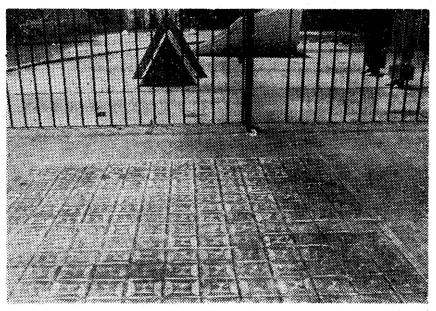
「作用と反作用は、方向は違いますが、力は等しいわけです」と唇の下に右手の甲をやりながら講義を行なうのは後藤先生である。

そして、時々漫画を描きながら講義を行なうのは久保田先生である。

久保田　先生

今度は現代美術展　東京へ

立体作品を出展



技術担当の高崎先生が第十回現代日本美術展に出品された。

現代日本美術展は現代国際美術展と交互に行なわれ、コンクール部門と招待部門からなっている。現代日本美術展は国内からの出品作品の展覧会で、現代国際美術展は外国からの作品も含む。この美術展は戦後、いくつかの美術団体が集ってつくった連合美術展が発展したもの。開催地は東京などの大都市である。なお、海外ではこの美術展は東京ビエンナーレと呼ばれている。

先生が出品されたのは招待部門が今回が初めてだそうだ。また約百名の招待者のうち高知県からただ一人の出品者とのこと。

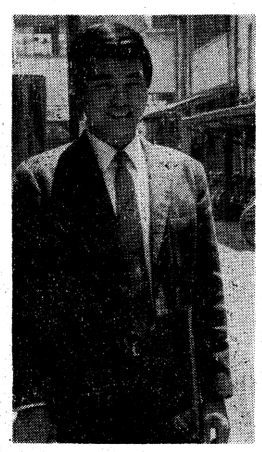
テーマは「自然と人間」作品について高崎先生は次のように話された。

「作品は会場に鉛をぶちつけた線の学者であるが学歴や地位を鼻にもかけず、ひたすら研究に励んでおられた。「学問の前では君も僕も同じ立場だ。君に歴史を教えるというより一つの見解を述べているに過ぎない。君自身が考えるのだ、何でもよいとにかくオリジナルなものを持ちたまえ」先生のこのことばを今日もなお忘れることができぬ。大学卒業論文は急病に倒れ入院した父の看病しながら書き上げた。大学時代最後の試練だった。

それから丁度一年後、父が急死し、経済的負担は長男の私に重くのしかかった。大学院修士一年の時である。大学院での研究は学部の時代と比較にならぬ程厳しい。週二十四時間の高校講師、加えて家庭教師のアルバイトは私の勉強時間を減らす以外の何ものでもなかった。同期の学友は他に二名。日夜研究に没頭していた。あせりのみがつのる。そんな時長谷川先生が意外な話をして下さった。「僕も学生時代貧乏で食うものがなく論文を書くために一週間下宿にこもり、ウメボシとイカの塩カラを食って勉強したことがある」この先生にしてこんな苦しい時代もあったのか。先生の短かいお言葉でまだ自分の境遇に甘えていることを恥じた。貧乏だから、父が死んだからと言って、いいかげんな論文を書くことはできない。学問とはそれほど厳しいものだ。そのことだけを自分に言いきかせながら修士論文を完成した。私は大学や大学院で私なりに「学問の厳しさ」を学び得たと考えている。私の学生時代の最大の収穫はそのことにつきると言っても過言ではないだろう。それを教えて下さったのは長谷川先生のお言葉と、先生御自身が私に示された学問に対する姿勢であったと思う。先日の先生のお便りによると、今年度から名古屋大学に移られたとのことだった。

恩師と学生時代

先生出番です



西峯隆博先生

私の大学時代は、アルバイトに追われる経済的貧困の時代でもあったので、もし曲がりなりにも「歴史」の勉強をする心が私になかったなら、恐らく味気ない学生時代に終わっていたであろうし、大学そのものの意味さえ、自分なりにとらえることは不可能となっていたに違いない。勿論大学へは、西洋史学を勉強する意志を持って入学したし、出来るならば大学教授になってやろうと純粋に（ある意味では大胆だが）志を立てていた。しかし、度重なる不運の中で学資や生活費かせぎのアルバイトをやりつつ自分の好きな学問に没頭することは、実際にはほとんど無理であった。

ただ、学問を志す己の心を、支えたものは、十数名の史学科学生が集う研究会での活動だ。それは、「西洋史学研究会」と称した。先輩達の指導に従って懸命に洋書を訳してその内容を考え、ランケ、マルクス、リッケルト、クローチェ、トレルチ、マックス＝ウェーバー等々の理論を語り合ったものである。この理論会は真の「研究」と言う言葉の意味をこくわずかではあるが私に理解させたし、すばらしい幾人かの親友を与えてくれた。自ら逆境の生活に甘んずるのではなく、その苦しみを乗り越えて学問をして行くのだと言うことを強く意識するようになったのも、これら親友の影響が大いにあったと思う。いつしかアルバイトと学問の、両立の生活が始まっていた。

勉強の必要上、頻繁に研究室を訪ねるようになったことが、学徒としての私に最も大切なことを教えて下さった二教授との邂逅を可能にしたのだった。長谷川博隆先生である。師は東大卒業後ドイツに留学され、世界第一級のローマ史家ゲルツァー教授のもとで研究にいそしまれ帰国後まもなく吾が大学に招かれた。人格は温厚で学問には極めて謙虚であると同時に非常な厳しさをもっておられた。大学三年の時、大学のある研究雑誌に苦心の小論を載せたことがあるが、先生は少なくとも活字にする論文に対してはもっと謙虚な態度が必要であることをそれとなく私に語られ、ともすればはやりがちな浅学の徒の軽率さをいましめられた。先生御自身日本のローマ史学界では、その研究も高く評価され、正に第一線の学者であるが学歴や地位を鼻にもかけず、ひたすら研究に励んでおられた。「学問の前では君も僕も同じ立場だ。君に歴史を教えるというより一つの見解を述べているに過ぎない。君自身が考えるのだ、何でもよいとにかくオリジナルなものを持ちたまえ」先生のこのことばを今日もなお忘れることができぬ。大学卒業論文は急病に倒れ入院した父の看病しながら書き上げた。大学時代最後の試練だった。

それから丁度一年後、父が急死し、経済的負担は長男の私に重くのしかかった。大学院修士一年の時である。大学院での研究は学部の時代と比較にならぬ程厳しい。週二十四時間の高校講師、加えて家庭教師のアルバイトは私の勉強時間を減らす以外の何ものでもなかった。同期の学友は他に二名。日夜研究に没頭していた。あせりのみがつのる。そんな時長谷川先生が意外な話をして下さった。「僕も学生時代貧乏で食うものがなく論文を書くために一週間下宿にこもり、ウメボシとイカの塩カラを食って勉強したことがある」この先生にしてこんな苦しい時代もあったのか。先生の短かいお言葉でまだ自分の境遇に甘えていることを恥じた。貧乏だから、父が死んだからと言って、いいかげんな論文を書くことはできない。学問とはそれほど厳しいものだ。そのことだけを自分に言いきかせながら修士論文を完成した。私は大学や大学院で私なりに「学問の厳しさ」を学び得たと考えている。私の学生時代の最大の収穫はそのことにつきると言っても過言ではないだろう。それを教えて下さったのは長谷川先生のお言葉と、先生御自身が私に示された学問に対する姿勢であったと思う。先日の先生のお便りによると、今年度から名古屋大学に移られたとのことだった。

山中先生東北大へ

後任には森木、大田両先生

長い間本校で生物を担当されていた山中三男先生は、今学期四月三十日をもって本校から、東北大学へ転任された。

東北大学は先生の御卒業校であり、今度の転任も先生の恩師である吉岡教授のお招きによるもの。

山中先生は東北大学に転任されてからは、六月から三カ月間、青森県にある同大学所属、八甲田山植物実験所で「替物生態学」の研究をされることになっている。植物生態学は植物が環境により、どのように変化してきたか、という事を研究するもので、先生が大学時代から研究を続けられている。

山中先生のお話

心残りと言えば、現在の高一は私が中一からずっと主任を務めてきているので、せめて高三まで一緒に勉強していきたかった。

なお、山中先生の後任に、森木先生と大田先生が生物の授業を担当されている。

変わった趣向の童謡

恒例のスプリングコンサート　吹奏楽部

去る五月一日、本校吹奏楽部恒例のスプリング・コンサートが高知市文化祭参加行事として、高知市中央公民館で開催された。

演奏は四部に分かれ、第一部は北条先生指揮のクラシック、第二部は西峯部長指揮のマーチ、第三部は今回初めての試みである童謡第四部は山本博史君指揮のポピュラーであった。

六時、校歌とともに幕が開かれ第一部が始まった。第一部は「軽騎兵序曲」ほか四曲。第二部は「国民の象徴」ほか五曲。第三部になると雰囲気が一変し、「豚が逃げた」などの童謡を歌ったり、童謡の演奏。そのため客席からは笑い声が絶えなかった。

第四部は「聖者の行進」が始まり好調へと入っていった。「雪が降る」の時、天井からハッピー・スチロールで作られた雪が降り、ムードが出たようだった。最後は「ムーンライトセレナーデ」で幕を閉じた。

顧問の北条先生は「例年なみのできだったが、部員は楽しそうにやっていた」と言われた。ある部員は「ポピュラーが少しだめだった」ときっそく反省していた。

踵を踏む事に関する社会科学的一考察

人は何故、踵を踏むのだろうか。つれづれなるままに廊下へ出てみれば、ほとんど皆――といっていい程踏んでいる。それを見ていると、上ばきと言わずにスリッパと言うのも成程と思えてくる。踵を踏んでいないのは、まじめな人か、バカ正直か、気違いか、はたまた中学一年生か、ということは定説でもなんでもなく、要するに、踵を踏む、何故かとつらつら考えるに、これは伝統であるということが言える。この学校で、朱に交われば赤くなる、しばらく待てば青になる、のたとえ通り、こういう風習に染まって来たのであり別段深い訳はなく、つい出来心でやっているのだ。まためんどくさくない、という事もあるが、これは当然であって、遅刻しそうな時など、いちいち後をちゃんとやってはおれない、先んずれば人を制す、後を踏めば遅刻せず、とはうまく言ったものである。その他にも、踵に集団発生する水虫説、上ばきを早く消耗させてまた買わそうという売店謀略説などある。また誰が始めたかについては、どこの誰だか解らない。という月光仮面説などあるが、初めにあげた二つの理由同様でたらめである。

一方、踵を踏むのは好ましくないというのには、だらしがない、みっともない、高校生らしくない、と恥ずかしい、と色々似たような理由がある。何分にも見ぐるしい髪は切り取ってしまうという御時世であるから、はみ出している踵は足ごと切断するという事態も起こりかねないのである。とはいえ、立つ鳥後を濁さず、土佐高生後を踏まずという格言はいまだになく、どういう訳かは知らないけれど、太宰治風に言えば、「土佐校には、上ばきを踏むのがよく似あう」のである。

（二T・岡本哲明）

こえ

ウーマン・リブ賛成

本校の女性のみなさん、あなたはウーマン・リブをどのように考えていますか？

ウーマン・リブは、中学生や高校生に関係ないと思っている方、その考え方はまちがっていませんか？

だって、中学生も高校生も社会の動きを見つめるべきでしょう。それに、やはり今の社会では、女性のほうが、なにかにつけて不利、そこのところを、よく考えてください。

それに、いくら仲良くしても男は男、女は女。将来のことを考えると、十代の今から、男性をウンとコラシメて、これから先、私達が泣かなくてすむようにしておくべきです。

（かわいい女の子より）

CINEMA

覗く〝人間プレスリー〟

「エルビス・オン・ステージ」

これは新しいエルビス・プレスリーです。彼の出演映画は、これが三十二本目ですが、我々が今まで知らなかったプレスリーがここに登場します。それは我々の心をつかんで放さないプレスリーの姿です。

この映画は約二時間の長尺ですが、大半は、一九七〇年の八月十日から九月七日まで開かれた「ビッグ・エルビス・サマーフェスティバル」の独演舞台を撮影したものです。映画の前半は、主としてこのステージ・ショーのリハーサル・シーンで、撮影は、MGM撮影所内とラスベガスの舞台の二カ所で行なわれ、随所にユーモラスな練習風景が見られます。殊にスタジオでは、練習を始めたばかりなので、どっと笑いが起こったりする場面もあります。そうしているうちに、本番にはいるわけですが、この舞台では「ラブ・ミー・テンダー」・「ポーク・サラダ・アニー」・「ザッツ・オール・ホテル」など新旧とり混ぜて実に十六曲も歌いまくり、また、リハーサル・シーンで歌われる「この胸のときめきを」もエルビスにふさわしい明るい健康的な歌です。

さて、この映画の監督は、デニス・サンダーズですが、彼は二度もアカデミー賞を受賞したドキュメンタリー映画界のホープでまさにうってつけといえましょう。また撮影は、ルシエン・バラード・衣装デザインにビルベル・編集にはヘンリー・バーマンを起用、出演陣は、エルビスの他に、エレキ・ギターのジェームス・バートン、ドラムのロニー・タット、ボーカルにミリー・カークハム、ザ・インスピレーションズ、ザ・インペリアズなどで、息の合ったところを見せてくれるでしょう。

「エルビス・オン・ステージ」は、ずばりそのもの、エルビスにスポットを当てた作品です。ここには、映画のための脚本も扮装もトリックもありません。あるものは、彼の総力を振りしぼった舞台の見事さです。しかも、その合間に、ちらほらと人間プレスリーがのぞくのも楽しみです。

（H・K）

皆様の――帽子の店
土佐中高指定
元田帽子店
高知市帯屋町二丁目南側
TEL ⑫ 二五九一

学生服専門店
児島屋
高知・帯屋町二丁目
TEL ㉒5551

古本誠実購入
井上書店
定休日　毎週月曜日
高知市帯屋町２の72
TEL ⑫ 3921

あらゆる万年筆
万年筆は白亞堂
帯屋町東宝会館西　TEL ⑫ 2473

各種画材
額縁
水谷龍文堂　TEL ⑫ 0067
高知市帯屋町５４（大劇東）

参考書は　２階売場
明文堂
ニューコーチビル西端
TEL ㉒6395（代）

紳士服装専門店
お誂紳士服
高級既制服
男子専科…ヤングマンコーナー
＜土佐高制服オーバー指定店＞
廣松屋
大丸北口前　TEL ㉒ 2338，2339

ヤングマンの心を射る
時計 バンド カトウ
オビヤ町　中央公園北入口
TEL ⑫2377